

# vivo

水戸芸術館音楽紙[ ヴィーヴォ ]

3 MARCH 2004

## CONTENTS

クリスティーネ・シェーファー ソプラノ・リサイタル .....	1、2
東京オペラグループ公演 奥様女中 .....	3、4
最近の公演から .....	5、6
ネットマ & Petite 情報 .....	7
インフォメーション .....	8



写真上・左:クリスティーネ・シェーファー 右:エリック・シュナバード  
下:奥様女中(イタリア、ヴェローナでの公演)

## 歌姫、水戸の春を彩る[ 第1弾 ]

3 / 21(日)クリスティーネ・シェーファーソプラノ・リサイタル

2004年、水戸の春を2人の歌姫が彩ります。その2人の名は、クリスティーネ・シェーファー(ソプラノ)とナタリー・シュトゥツマン(コントラルト)。2人とも、今をときめくドイツ・リートの名歌手です。

少し目まいがしている方がいらっしゃるかもしれませんが。名歌手といえ、2002年秋にバーバラ・ボニー(ソプラノ)が、2003年春にアンネ・ソフィー・フォン・オッター(メゾ・ソプラノ)が、夏にフィオレンツァ・コッソット(メゾ・ソプラノ)が水戸芸術館に登場し、忘れがたい素晴らしいリサイタルを披露したばかりだからです。その上に、今年、シェーファーとシュトゥツマンが相ついで登場するというこの贅沢なラインナップは、本場ヨーロッパでもなかなかお目にかかれないものです。

大変ありがたいことに、ボニーもオッターも、水戸芸術館のハード(施設やホールの音響)とソフト(企画の内容や運営の方法)を絶賛し、そこに集った聴衆のレヴェルの高さを褒め称えていました。水戸芸術館については、小澤征爾が音楽顧問を務める水戸室内管弦楽団などの存在で、あらかじめ知っていたようですが、聴衆の注意深さ、真摯な態度、そして共感度の高さには本当に驚いたようで、2人とも「またここで歌わせて欲しい」という言葉を残してヨーロッパに戻って行きました。

こうした評判を聞きつけてか知らずか、この春、水戸に降り立つ2人の歌姫、シェーファーもシュ

トゥツマンも、アーティスト側から「水戸で歌わせて欲しい」というオファーが来たのです(シュトゥツマンは、既に2度水戸室内管弦楽団と共演しているため、水戸芸術館とその聴衆については、すでによく知っているはず)。

世界一流のアーティストと地方都市のホール及びその聴衆との、こうした幸福な結びつきは貴重であり、私たちスタッフは、これからも大切に育てていきたいと、心から願っています。そのためには、音楽ファンの皆様の協力に絶対に欠かせません。ぜひこれまでと変わらぬ音楽やアーティストに対する愛情と知的好奇心をたずさえて、ホールにお越しただいただければと思います。

わが道を行く歌手シェーファー

クリスティーネ・シェーファーは、フランクフルトで生まれたドイツ人のリリック・ソプラノ。子供の頃からピアノとチェロを習ってクラシックに親しみ、15歳の時にはストラヴィンスキー「春の祭典」に夢中になり、またベルク「ルル」に憧れた、とのこと。アーリン・オジェー、ディートリヒ・フィッシャー＝ディースカウといった大歌手や、現代作曲家ライマンなどの教えを受けた後、1995年ザルツブルク音楽祭で「ルル」のタイトルロールを歌い、一躍脚光を浴びます。その後、小澤征爾、アバド、ブレーズ、ラトル、アーノンクールといった世界的指揮者

からのラブ・コールが目白押しとなり、オペラのほか、リサイタルやCD・DVDリリースなどでも極めて高い評価を得ていることは周知のとおりです。

しかし、シェーファーは、依頼さえ来れば何でも歌ってしまうタイプの歌手ではありません。その姿勢は、若い頃から変わっていないようです。スリムな外見から想像するとおり、どちらかというとき細く繊細な声を持つシェーファーは、学生時代から「オペラには不向き」と言われてきました。「おかげで多くの若い歌手のように、まず小さな劇場のアンサンブルへ入り、何から何まで歌ううちに(声を)消耗する危険とは無縁でした。良い演出家とめぐり合い、納得できるキャラクターとして演じ、歌える場合に限って、オペラの舞台に立ちます」と語るシェーファー。駆け出しの頃、注目を浴びた「ルル」も「世紀末のファム・ファタル(魔性の女)」という類型ではなく、あまりに普通だった女性の設定だったから引き受けました」と言い切ります。

そんなわが道を行くタイプの歌手シェーファーの魅力、を、たっぷり味わえるのがリサイタルです。プログラムの中心となるリートについて、シェーファーは「時には2分間ですべてを表現し尽くせる、凝縮された世界」とし、「リートはオペラを歌うよりアドレナリンを必要とするし、精神的にも大変だし、肉体的にも力わがが要求されますが、これからはもっとリートをたくさん歌いたい。リートはとても人

間的な音楽の表現方法です。ピアニストと2人だけで音楽を作る、もっとも美しい形の音楽表現だと思います」と語っています。また、そのプログラムについては、「あまり知られていない曲を紹介するのが楽しくて。派手な歓声はなくても、聴衆に受け入れられているという実感が持てます」と語り、名曲をただ並べただけの、安直なプログラミングとはあっさりとは決別しています。

#### プログラムについて

2002年以来、2度目の来日となるクリスティーネ・シェーファー。今回、水戸芸術館でのリサイタルのために選ばれたプログラム(パーセル、ヴァーグナー、ヴォルフ)も、ありきたりのものとは一線を画す独創的なものです。

まず、ヘンリー・パーセル(1659~1695)の歌曲「薔薇より甘く つかの間の音楽」。バロック音楽のシンプルなたたずまいの中から、愛と音楽の深い喜びを導き出してくれるでしょう。

つぎに時代は一気に後期ロマン派へとくだり、リヒャルト・ヴァーグナー(1813~1883)へと移ります。シェーファーが篤い信頼を寄せるピアニスト、エリック・シュナイダーの編曲・独奏による楽劇「トリスタンとイゾルデ」前奏曲。そして、マチルダ・ヴェーゼンドクとの道ならぬ恋をきっかけに、その楽劇と双生児のように生まれた、マチルダの詩による「ヴェーゼンドク」歌曲集。2002年11月に水戸室内管弦楽団(指揮:若杉弘)の伴奏でナタリー・シュトゥッツマンがこの曲を歌いましたが、声質がまったく異なるだけに、聴き比べも楽しみです。

休憩をはさんで後半は、フーゴ・ヴォルフ(1860~1903)一色となります。ヴォルフは、ヴァーグナーが楽劇において行った劇的表現と人間心理の探求を、リートというミニマムな形態の中で追求したドイツの作曲家です。したがって、晦渋な人生哲学、卑猥な欲望、強烈な風刺、皮肉交じりのユーモアなど、それまでリートにはあまり適さないと考えられていた性格のものまでが、題材として取り入れられました。また、1人の詩人を選び、集中的に作曲したのもユニークです。そこにあるのは、シューベルトの歌曲集のような物語性でも、シューマンのような内面のドラマでもなく、総合的な人間の営みの音詩化であり、ヴァーグナーにも劣らぬ世界観の表出であると言えるでしょう。

昨年は、ヴォルフ没後100年にあたり、彼のリートを取り上げる機会が多かったというシェーファー。膨大な数に登るヴォルフのリートの中から、ゲ

ーテの詩による曲(7曲)、メーリケの詩による曲(3曲)、ハイネの詩による曲(1曲)を厳選して私たちに届けてくれます。(なお、今回の来日でヴォルフの歌曲が聴けるのは、水戸芸術館のリサイタルのみとなります。)

#### シェーファーの魅力

シェーファーの細く硬質な歌声は、その声だけで多くの聴衆を魅了してしまうようなタイプではありません。また、コロラトゥーラの技巧も、グルベローヴァやデッセーのように、いとも簡単に楽々とこなすわけではありません。

では、人々はシェーファーの何にそんなに魅了されるのでしょうか。

シェーファーは、好きな言葉は何ですかと尋ねられ、「集中」と答えたそうです。この話を聞いて、私はなるほどと思いました。シェーファーの歌を聴くとき、いつのまにか歌詞カードを片手に、背筋を伸ばして聴いているのは、シェーファーの歌に非常な集中力があり、シェーファーの歌はそれと対峙する私たちにも、それに見合う「集中」を求めているからではないか、と思ったのです。

シェーファーの歌は、一聴すると、あまり愛想が良くないかもしれません。しかし、こちらが集中して、注意して聴けば聴くほど、音楽という過ぎ行く時間と共に生きる芸術に、シェーファーがどれだけ

細心の注意を払って接しているかがわかってきます。シェーファーの歌唱芸術の核心を突いたと思える文章をご紹介します。

「私が始めに書いた、あの梅雨の曇り空のようなくもりがちの声、明晰なディクション、といったものから、さらに単語の1つ1つがよく切り離され、それぞれの生命で生きているように歌われていること。その一方で、しかし、決して、ばらばらで、潤いのない乾いたフレーズの連続には聞こえないのである」(吉田秀和氏・「レコード芸術」より)

「彼女のこの“なめらかさ”も注意深く耳を傾けると、シューベルトの「エレン」の歌では、ここで繰り返されるさまざまな音型も単なる繰り返しではなく、各情景の変化、また少女エレンの祈りの姿などが「アヴェ・マリア」に浮かび上がってくる」(畑中良輔氏・「朝日新聞」より)

「すべてを忘れて自分の納得のゆく織物を仕上げようと、機織に集中する乙姫のように、人の目を意識したものではない。真に美しいものを生み出そうとする彼女の没我的な姿勢に、心を打たれない聴き手はいなかったろう」(喜多尾道冬氏・「レコード芸術」より)

人々はシェーファーの何にそんなに魅了されるのか。筆者には、「集中がもたらす音楽そのもの」としか答えられません。

《関根》

### クリスティーネ・シェーファーを知る3枚

#### モーツァルト&R・シュトラウス作品集 457 582-2(輸入盤)

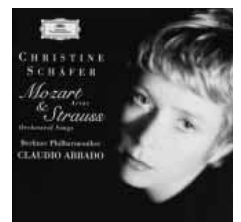
アバド指揮ベルリン・フィルの手厚いサポートを得て、シェーファーがモーツァルトのコンサート・アリヤやR・シュトラウスのオーケストラ伴奏の歌曲を歌っている。モーツァルト、エクスルター・テ・イウピラ、イテなど、より艶やかに歌うソプラノが多い中で、シェーファーはアポロ的知性と格調高さを聴かせると。R・シュトラウスの細やかなニュアンスも絶品。

#### ドビュッシー&ショーンソン 歌曲集 POCG-10261(国内盤)

伴奏ピアニスト、アイン・ゲージのアドヴァイスにより実現したというフランス歌曲のアルバム。ショーンソン「リラの花咲く頃」蜂鳥といった比較的よく歌われる作品から、ドビュッシー「抒情的散文」白夜など、ついに聴くことのできない歌曲まで含まれる。BGM的に流されることを拒絶するシェーファーのすさまじい集中力が聴きもの。

#### シェーンベルク 月に憑かれたピエロ ほか POCG-10130(国内盤)

ブリーズ指揮アンサンブル・アンテルコンタンポランのメンバーとの共演。月に憑かれたピエロの語り、俳優が行うことも多いが(2001年、水戸芸術館で内田光子と仲間たちが演奏した折には、ドイツの名女優バーバラ・スコヴァアが担当した)、シェーファーはあくまで歌手としてアプローチする。音楽的完成度が極めて高く、古典的な美しさすら漂っている。





写真左から；  
高橋薫子  
小鉄和広  
ステファノ・ヴィーゴ

## ウベルトとセルピーナ、ナポリの恋のゆくえは...？ 3 / 27(土)東京オペラグループ公演・喜歌劇 奥様女中

2月に「水戸映画祭」の一環としてACM劇場で上演された映画『永遠のマリア・カラス』はチケットがたちまち売り切れる盛況でした。この“vivo”を読まれている方々の中にも、不世出の大オペラ歌手マリア・カラスの悲劇的生涯とそのドラマティックなアリアの数々に涙した方が、きっとたくさんいらっしゃるでしょう。

さて、カラスが演じるオペラの壮大・華麗・重厚な世界を十分に満喫されたなら、こんどはまったく違うタイプのオペラはいかがでしょう。上映時間は1時間、小粋で軽妙で、最初から最後まで笑いが絶えないオペラ。若杉 弘企画運営委員の企画として、3月27日(土)に水戸芸術館コンサートホールATMで上演される 奥様女中 はそんな小気味のいい一品です。

### 元祖・恋愛喜歌劇 奥様女中

奥様女中 を作曲したのは18世紀初頭のナポリを舞台に活躍した作曲家、ジョヴァンニ・バッティスタ・ペルゴレージ(1710～36)。生没年をご覧の通り、わずか26歳で病没してしまった、夭折の天才作曲家です。彼が生涯に残した作品のうち、今日でもその名を不滅のものとしているのはこれからご紹介する喜歌劇 奥様女中 と宗教曲 スターバト・マーテル。後者はペルゴレージが死の床で書いたといわれる作品で、磔刑にされたわが子キリストを嘆き悲しむマリアの心情を切々とつづった名作です。生涯の代表作2曲がそれぞれ「笑い」と「涙」をそれぞれこの上なく美しくつづった作品だとは、短いながらもなんと鮮やかな作曲家人生であることでしょうか。

さてこの 奥様女中、登場人物はたった3人しかいません。まずは金持ちの独居老人で気難し屋のウベルト、そして愛らしく機知に富んだ小間使いの娘セルピーナ。もう一人は、口のきけない召し使いのヴェスポーネ。いつもがみがみ言っただけのご主人様を、セルピーナがいかに手玉にとって奥様の座につくか、というのが物語の筋です。ウベルトはバス、セルピーナはソプラノが受け持ち、対照的なキャラクターの歌唱を存分に聴かせますが、ヴェスポーネはいっさい歌わない、セリフもない「黙役」として、いわば道化のごとく舞台をかきまわし笑いを誘います。この最小限の登場人

物と筋立てにペルゴレージがとびきり軽妙な音楽をつけ、重々しさとは無縁の、アル・デンテナ茹で具合のペペロンチーノのように切れのいい喜歌劇が誕生しました。

そもそもこの 奥様女中、独立した作品として書かれたわけではありません。これは元来、1733年、ペルゴレージ自身の手になる正式なオペラ(オペラ・セリア)、誇り高き囚人の幕間劇(インテルメッツォ)として書かれたものなのです(能と狂言の関係に似ていますね)。ところが 誇り高き囚人の方はすっかり忘れられ、爆発的な好評を博した 奥様女中の方が有名になり、こうした幕間喜劇は「オペラ・ブッフア」という独立したジャンルを形成することになりました。この 奥様女中は1752年パリで上演され、「フランスの伝統的なオペラとオペラ・ブッフアのどっちがいいか」とラモーや啓蒙主義者ルソーを巻き込む大論争(ブフォン論争)に発展するのですが、そんなことは当のペルゴレージの預かり知らぬこと。むしろ、天国のペルゴレージは、自分が「創始した」ということになされたオペラ・ブッフアというジャンルが、やがてすばらしい後継者による珠玉のような作品に結実していったことの方を嬉しく思うことでしょう。そう、モーツァルトの コシ・ファン・トゥッテ や、

ロッシーニの セヴィーリヤの理髪師 へと。

### ウベルト小鉄 vs セルピーナ高橋!

さて、今回の舞台を受け持つのは、小規模な室内オペラを高水準の舞台で楽しませてくれる注目の団体、東京オペラグループ。名バス歌手・小鉄和広(1996年には若杉 弘指揮する水戸室内管弦楽団第26回定期演奏会に出演し、リヒャルト・シュトラウス 町人貴族 ナクソス島のアリアドネ で名唱をきかせました)が率いるこのグループ、奥様女中 が大の人気演目で、イタリアや新国立劇場で絶賛の舞台を披露しているのです。小鉄和広扮するウベルトのお相手セルピーナ役は今や人気絶頂のソプラノ高橋薫子。今年の水戸芸術館ニュー・イヤール・コンサートにも登場し、モーツァルトやヨハン・シュトラウスなどを鮮やかに歌い上げ、チャーミングな身のこなし共々ブラヴァの歓声に包まれたのは記憶に新しいところ。加えて黙役のヴェスポーネは演出も兼ねたステファノ・ヴィーゴ。さあ、どんな舞台が繰り広げられるのか。小鉄和広さんに今回の公演のみどころききどころのご紹介をお願いしましたので、どうぞお読みください。

### セルピーナ・ノブチャンこと高橋薫子様へのラヴ・レター

小鉄和広

今、僕は冬のヴェローナでこれを書き始めています。あれは二年前の六月でしたね、ヴェローナ音楽院の広い中庭と一緒に 奥様女中 を歌ったのは。昨日たまたま音楽院の前を通りがかり、あのクラクラするほど暑かった真昼の中庭でのリハーサルを思い出し、現実の今の寒さがむしろ奇妙に思えました。あの時は、それまでに君と僕で何回も共演した 奥様女中 ではあったけれど、僕以外の演出で演じるのはお互いに初めて。そして練習期間は正味たったの5日間、その上初めての海外共演だったから、(少なくとも僕は)緊張したよね。この「元祖・喜歌劇」、歌手二人の台詞のやり取りの面白さと、単純で明るい旋律が特徴の、まさにイタリア的なこの作品を演じる僕達は、まるで「イタリアでイタリアンレストランを開店する日本人板前」の気分だったね。九時の開演予定を過ぎてから、ようやくとぞろぞろ集まってきたお客の雰囲気も、あの時の僕にはとても重苦しいものに感じられた。でも弦楽アンサンブルのリズミカルな前奏が鳴り始め、ウベルト・コテツの短いアリア

(次ページへ)



写真左から；  
若杉 弘、松下 耕

の後、練達のヴェスパーネ・ステファノの演じる下男をタツタツと追いかけて、セルピーナ・ノブチャンが涼しい夜風の吹く中庭の舞台に現れた頃には、客席もすっかり僕たちの味方。そのあとは笑いに包まれてアツという間、終演後は皆立ち上がって拍手、その上、目がハート形のイタリアの男どもが君の楽屋に押しかけるおまけ付。翌日の新聞にも、アレーナの大オペラ・シーズン初日の批評と並んで、それに引けをとらない大きさの写真と(少し甘めの)記事が載っていたのは、歌手としてより、奥様女中 イタリア公演の企画者として本当にうれしかった。

そんなこんなで、あっという間に時が経ち、僕らとしたらちょっと久しぶり、今年の三月に 奥様女中 をまた共演することになったわけだ。水戸芸術館は、奥様女中 のような小規模のオペラにはうってつけの緊密な空間。元来イタリアの古典的な喜劇は、大掛かりな舞台装置など必要としない。いやむしろ、芸術館のステージを囲むお客様のイメージネーションが、目には見えない異次元の「舞台」を創りあげ、その舞台上で僕ら演ずる個性的な登場人物たちがやりとりする、そんな楽しいことが起こりそう。常々、君と僕の 奥様女中 コンビのいいところは、二人の性格がぜんぜん違うところと感じている。そのくせ、なぜか相手の喜怒哀

楽がお互いに手に取るように判るんだよ。そのことが、イタリア喜劇の根幹にあるボケ・ツッコミ、つまり「対比」の感覚にうまくマッチするんだと思う。セルピーナとウベルトは、若い娘と老人、女中と貴族、機転が利く者と頭が固い者といった「対比」の関係であるのに、根底において「愛」で通じ合っている素晴らしさ。異質な者同士が愛によって結ばれることは、世界の平和と同義なんだ！それに僕は、やっと実年齢も中年にさしかかり、若い娘に恋するオヤジの気持ちも(チョットダケ)わかるようになったしネ。

ここだけの話なんだけど、実は今後もイタリア各地で東京オペラグループの 奥様女中 公演をしようと奔走

中なんだ。今もヴェローナからローマに向かうユーロ・スターの中でこれを書き終えようとしている。(実現したら驚くような企画もあるけど、今は本当に内緒。)僕の口癖、イタリアと日本を結んで活動したい、というのはウソで、イタリアの夏の夜風に吹かれて歌う心地よさがやみつきになってしまったのかもね。いまやオペラ界で引っ張りだこのノブチャン。この間の ロメオとジュリエット も本当に素敵だった。でも口マンチックな役が続いてばかりで、君の中のいたずら心がムズムズしてきて、明るいオペラが恋しくなったら、その時はウベルト・コテツのことを思い出して！

おやおや小鉄さん、すっかりセルピーナ高橋さんにメロメロのご様子。ウベルトの陥落は時間の問題、という感じですね！3月27日、私たちも、熱々のおふたりのおすそわけに預かるうちはありませんか。小鉄さん訳の字幕も楽しみですね。

さて、本公演の前には若杉 弘企画運営委員のプレートクがあります。これはヴェローナでも新国立劇場でも聴くことのできない、水戸だけのスペシャル企画。古今のオペラを知り尽くした若杉先

生の解説によって、奥様女中 という作品が2倍も3倍も面白くなるのは間違いなし。ぜひとも、プレートクからじっくりお楽しみください！《矢澤》

#### 【おまけ情報】

奥様女中 のCDをご紹介しようと思ったのですが、なんと現役国内盤が全然ありません！最近まで出ていたクイケン&ラ・ブティット・バンド盤(同じ

ベルゴレージの リヴィエッタとトラッコロ とのカップリング)も現在は輸入盤(ベルギー・アクサン)のみ入手可能の様です。ただしクイケン盤は同じチームによるDVDが国内盤で出ていますので、こちらをご紹介しておきましょう。奥様女中(パイオニア PIBC2031)、リヴィエッタとトラッコロ(同 PIBC2032)。

## 松下耕氏の指導で、楽しみながら合唱の奥義を身につける 3 / 14 (日)合唱セミナー 2004 講師：松下耕

茨城県合唱連盟、茨城県高等学校教育研究会音楽部との共催により実施している「合唱セミナー」。畑中良輔氏、池辺晋一郎氏、新実徳英氏など日本を代表する作曲家、指揮者、合唱指導者を講師に迎え、課題曲を半日かけて練習していきます。

今回は、昨年のセミナーで大好評だった作曲家・合唱指揮者の松下耕氏を再びお迎えします。計算され尽くした指導と巧みな話術で、参加者の心と身体をあっという間につかみ、いつのまにか合唱の奥義へと導いた松下氏。今回はどのような指導で私たちを驚かせてくれるのでしょうか。

今回の課題曲は、前回のおさらいも込めて 合唱のためのたのしいエチュード 1 より「すいぞくかん」「ゆきがとける」の2曲。そして、今回新しく

合唱のためのたのしいエチュード 2 より「うし」「くじら」「フユノヨル」「みずのなか」「たね」の5曲が加わります(以上すべて松下耕氏作曲)。

松下氏は、この曲集を作った動機を、合唱団の読譜力とソルフェージュ能力を高めるためとした上で、以下のような特徴を挙げています。

1. 全曲がア・カペラであること
2. 曲ごとに異なる様式観を持たせていること
3. 様々な旋法が登場すること
4. 一部に日本の伝統的な音階を用いていること
5. 短い曲ばかりであること
6. 音楽会でも演奏できること
7. 移調は自由であること

特に1～4は、合唱をやる上でまず身に付けたいいことがらと言えます。しかし実際は、最初から

声を出すことで精一杯になってしまい、楽譜や音楽事典をじっくり読んで、音楽の成り立ちの基礎の部分勉強することがあるそかになってしまいがちです。松下氏のこの曲集が、たくさんの合唱愛好家の皆様によって愛唱されているのは、そうした基礎的で、かつ奥の深い音楽語法や様式観を、シンプルに楽しく学ぶことができるからなのでしょう。

前回参加された方はもちろん、今回初めてという方もふるってご参加ください。楽譜は、水戸芸術館内ミュージアムショップ「コントロールポアン」でも扱っておりますので、事前にご用意いただき、譜読みを行ってきてください。

《関根》

## 最近の公演から

DECEMBER  
JANUARY



1



2



3



4



5



6



7



8

### アートタワーみとスターライトファンタジー 第8回 クリスマス・コンサート(12月6日)

水戸の冬の風物としてすっかり定着した、水戸芸術館や水戸駅をライトアップするアートタワーみとスターライトファンタジー。コンサートホールでは、同イベントの一環として、水戸市内の小・中学生が日頃の音楽活動の成果を披露する「クリスマス・コンサート[市内小中学校芸術館コンサート]」を開催した。今年は吹奏楽、金管合奏、合唱、ハンドベルなど16校の20団体、およそ700名の生徒さんが参加した。子供たちは緊張した面持ちながら、晴れやかに一途に演奏を行った。このステージの経験が、彼らの宝物となりますように。《中村》

### ミト・デラルコ第6回演奏会(12月13日)

オーストラリア出身の新メンバー、ソフィー・ジェントを迎えての再スタート演奏会。ソフィーは、ふだんはとても静かなキャラクター。しかし音楽は雄弁で積極的、アンサンブルの対話を存分に活性化させ、頼もしい活躍ぶり。今後のミト・デラルコの新しい展開を、大いに期待させる仲間の登場だ。日本食を愛し鮮魚珍味納豆なんでもOKのソフィー、暖かい聴衆の拍手を受けてすっかり水戸大好き! 芸術館大好き! のご様子。皆様これからも応援よろしくをお願いします。アンコールはハイドン:弦楽四重奏曲 八長調 作品50の2から第2楽章アダージョ・カンタービレ(ソフィーのソロで始まる曲) および Beethoven: Rasmoux' masky 四重奏曲...これはベートーヴェンのオランダのいとこが作曲した、クリスマスナンバーによって構成された四重奏曲であります、というのは半分嘘で編曲は鈴木優人氏でした。《矢澤》

アンケートから アンサンブルの暖かい雰囲気よかった(ひたちなか市:A.F.さん) 最近のコンサートは、ピッチが高めで、テンポも加速する傾向の中にあって、私はいつも心拍数が高くなりそうなのをおさえながら聞いています。しかし今夜は、ゆったりとした気分で音楽にひたれました(中略) 第2ヴァイオリンやヴィオラ奏者は、サッカーという「ポランチ」と言えますね!(水戸市:S.E.さん) 素晴らしい演奏でした。良い曲を良い演奏で聞く楽しさ。MITOは世界で五指に入るQでは...東京から来た甲斐がありました(東京都:無記名の方) 一つの家族のように息のぴったり合った演奏で、また次回も聴きにきたいと思いました(水戸市:M.O.さん)

### 水戸の街に響け! 300人の《第九》 (12月21日)

ミレニアム(1999年)、新世紀へと移る年(2000年)という節目の年に2年連続で行われた 水戸の

街に響け! 300人の《第九》。その後、コーラスの一員として参加された方や、公演をご覧になったお客様より、「もう一度歌いたい」「毎年開催して欲しい」といったご意見が多数寄せられ、その声に応える形で、今回、復活開催となった(茨城県合唱連盟、水戸市合唱連盟、水戸市音楽団体連盟との共催)。コーラスは9月から、本番の指揮者・鈴木良朝氏、菅波ひろみ氏、堤五郎氏の指導により熱のこもった練習を開始。今回はじめて参加するコーラス未経験の方々も多かったが、先生方の親切的な指導と皆さんの真摯な練習態度、そして前回の経験者が上手に未経験者を引っ張ったことで、驚くほど早く上達した。本番の直前の練習では、独唱者(結城滋子、小林由佳、井ノ上了吏、清水良一)、エレクトーン(小林由佳、武元彩子)、ピアノ(中村真由美、中村佳代)、ティンパニ(中村文彦)が加わり、コーラスの皆さんの表情に緊張と期待が高まるのが見えた。

本番の日は、早朝5時半よりステージと音響の仕込を開始。前夜、突然の雪が降り、コーラス台が凍結して危険な状態になっていたため、予定外の作業が加わったが、何とか1ハーサルの時間に間に合わせた。12時と13時半の2回の本番は、どちらも晴天に恵まれた。風も弱くあたたかで、300人を超える大合唱団は一人一人が気持ち良さそうに歌っていた。演奏自体も素晴らしい、鈴木良朝氏のとる悠々としたテンポに乗って、コーラスと独唱、器楽が渾然一体となって纏り成す力強いサウンドが水戸の街に響いた。演奏が終わると、加藤統一水戸市長をはじめ、水戸芸術館の広場を埋め尽くしたのべ2,200名の観客から盛大な拍手がわき起こった。《関根》

### クリスマス・プレゼント・コンサート 2003 (12月23日)

今年の「クリスマス・プレゼント・コンサート」は、畑中良輔の企画・おはなして、ヨーロッパと日本の伝統美の大競演!! となる盛り沢山のプログラム。小原孝は、NHK-FMのレギュラー番組『弾き語りフォーユー』同様のラジオ放送形式で、ユニークなステージを見せてくれた。また、青山恵子扮するKEIKO Carmenは、着物風の衣装で菖蒲の花や扇子を手に舞いながら歌い、鼓の河内節子、三絃の杵家七三、尺八の竹井 誠が加わっての、まさに和風カルメン。青山に加え、会沢明美、小野勉、堀野浩史が、続く滝廉太郎作品のステージで情趣溢れる歌声を聴かせた。茶音頭 では、三絃の水木結が急病のため、佐野奈三江が出演、音楽にあわせてお点前も披露された。中村佳代のメシアン演奏は、厳粛で神秘的な音響を作り上げていた。そして最後は、あひる会合唱団によるクリスマス



1



2



3



4



5



6



7



8

マス・ソングの大合唱。なお、恒例の抽選会では出演者のサイン入りCDや書籍等がプレゼントされた。《馬場》

アンケートから 滝廉太郎の 荒磯、憾、初めて生の演奏で聴いて100年前にこのような素晴らしい曲が作られていたことに感動。廉太郎の早逝が惜しまれます。(栃木県鹿沼市:T.H.さん) クリスマスとお正月が一度に来たようです。(水戸市:M.N.さん) まず感激して泣いてしまって、次のカルメンでは笑わされて、滝ワールドではひたって、プレゼントは私の両隣の方々が当たって(笑)...。(水戸市:T.H.さん) とても楽しいひとときでした。洋と和の調和された世界にひきつけられました。(水戸市:Y.A.さん)

ニュー・イヤー・コンサート2004(1月5日)

「ウィーン、夢の輪舞」をサブタイトルに掲げた2004年のニュー・イヤー・コンサート。曲目の詳細はpetite情報をご覧くださいと思いますが、古いウィーンから新しいウィーンまで、一面的でないウィーンのさまざまな顔を感じていただけたなら嬉しく思います。杉木峯夫とデイヴィッド・ヘルツォークがバルコニー席から吹き鳴らすブーパーのファンファレで幕を開けたコンサートは、初登場野平一郎を初めとする名手たちのソロ、アンサンブルを経て最後は堀 伝指揮による 皇帝円舞曲 の華麗な大団円で結ばれました。高橋薫子の熱唱は来るべき奥様女中への期待をかき立ててくれましたし、「紅白歌合戦」に出たばかりの人気NHKアナウンサー膳場貴子の司会も華を添えました。皆様の今年1年が「大吉」でありますよ!!《矢澤》

アンケートから とても感激です。すべて超一流で、新年にふさわしい、願った、期待した以上のものでした。(中略)私の干支です。いい年にして周囲にもしあわせを配ります(水戸市:N.Y.さん) ピッツィカート・ポルカが楽しかったです。“私の好きな曲”2曲とも圧巻でした(横浜市:Y.O.さん) チゴイネルワイゼンは日常の苦しみ悲しみをのみこんだいいしれない感動でした(無記名の方) ソプラノの美声は素晴らしい(ひたちなか市:A.S.さん) 司会者の方がとてもやさしくてよかった(水戸市:T.A.さん) 正月はシュトラウスのワルツやポルカという日本のコンサート事情をゆゆしく思っていたので水戸芸術館も商業化に傾いたかと思ひながら当夜に臨みましたが、プログラムを見てその懸念はふっ飛びました。超安心!(水戸市:S.E.さん)

兼氏規雄クラリネット・リサイタル(1月17日)

昨年秋、vivoのための取材の折、「クラリネットのリサイタルは、レパトリーの問題から、やれても2回か3回でしょう」と語った兼氏さん。自らの

楽器のレパトリーに厳しい兼氏さんが、慎重に選び抜き、「絶対に飽きさせません」と自信を持って問うたプログラムは、シューマン、ブラームスといったドイツ音楽から、オペラ リゴレット の超絶技巧を伴うパラフレーズ、多彩な音色が要求される印象主義的小品まで、ヴァラエティー豊かで聴き応えのあるものでした。このプログラムを見事に吹き切った兼氏さんの演奏ぶりについては以下のアンケートをご覧ください。兼氏さんとともに、個性豊かな各曲に切れ味鋭くアプローチしたピアノの小坂圭太さんにも、大きな拍手が贈られました。《関根》

アンケートから すばらしいテクニックは言うまでもなく、シューマンやブラームスの情感の豊かさ、リゴレットの歌う旋律も伸びやかに表現され、久しぶりに感動を味わう演奏会だった。(ひたちなか市:Y.K.さん) ブラボー! 巧みなテクニックと自在にクラリネットの音色を変える素晴らしい演奏に感激しました。(東京都:H.C.さん) 兼氏先生のいつもながらの甘い音色、響きに魅せられた一夜でした。小坂さんのピアノもとても素晴らしかったです。かげになり日なたになり、しかし決してソリストの音楽の世界をこわさず、対話しながら、2人でひとつの音楽の世界を作り上げていました。とても良かった!(水戸市:Y.Y.さん)

畑中良輔の 日本のうた セミナー 第3期

「中田喜直」(1月18日)

今回は、講師の畑中良輔氏と学生時代にクラスメートだった作曲家・中田喜直を取り上げた。研究曲は、中田の代表作とも言える歌曲集 六つの子供の歌 と、単体の歌曲 霧と話した サルビア。全国から集まった4名の受講生は実力派ぞろいで、高度な個人レッスンが繰り広げられた。畑中氏により詩や曲の多様な解釈のあり方がわかりやすく紹介され、聴講の方々も熱心に聞き入っていた。今回は、特別参加として、水戸で長年日本歌曲の研究と普及に務めてきた中澤敏子さんが登場、滋味に富む歌を聴かせた。セミナーを締めくくるミニ・コンサートのゲストには、ソプラノの大島洋子さんが出演。畑中氏の詩に中田喜直が付曲した 四季の歌 (全曲)や、こどものための8つのうた (抜粋)を披露し、貫禄漂う安定した歌唱と透き通るような美声で聴衆を魅了した。《関根》

アンケートから 大変よかったです。次回もまた来たいと思います。(水戸市:C.I.さん) 受講者の方々とはとてもお上手です。それでも畑中先生の一言で、とたんにぐんと一回り変わって、大きくなられるのには驚きです。客席にいる私たちも一緒に楽しんで練習しております。(那珂郡:H.T.さん)



\* nettama=ネットワークする猫、タマ。  
芸術館のコンサートをサカナに  
いろんなところへnettamaします。

ネットタマ / The dark side of the moon(1)

フィッシャー=ディースカウの歌うフーゴ・ヴォルフの ミケランジェロによる3つの歌曲を聴いていたら、恐ろしくさまざまな感情が胸の中にあふれてきて、しかしそれを言葉にすることができないまま立ち尽くすような、深い感銘を受けた。僕は決してヴォルフ歌曲をよく知っていないので、3月のシェーファーのリサイタルを機に歌われる曲をまとめて聴いてみたのだけれど、ほんとうにこの人は音楽史においてきわだって特異で強烈な個性の持ち主だったんだなあ、と思った。

彼の歌曲についての解説はぜひ2ページの関根君の適確な解説を読んでいただきたいと思うけれど、ヴォルフの音楽について彼が言う「総合的な人間の営みの音詩化」というのはよくわかる。喜怒哀楽から哲学的思考、享楽、絶望と希望、狂気にいたるまで、こんなにも短い1曲1曲に凝縮された音楽がほかにあるだろうか。シェーファーはコンサートのプログラムも相当考えて配列しているみたいだし、きっとこれは凄い感銘を与えてくれるリサイタルになるだろうなあ。

しかし、それほどの圧倒的な音楽を書くために、ヴォルフはなんとという大きな負債を払わなくちゃならなかったことだろう。1888年から90年

という3年間の間に、彼は生涯の代表作の大部分をなす200以上の歌曲を爆発的な集中力で書いてしまった。あんな密度の濃い作品を200曲! その後数年、彼が腑抜けのような鬱状態に陥ってしまったのは無理もない。

長い沈黙の末、ヴォルフはオペラ 代官様 を95年に完成させ、96年にはふたたび歌曲への旺盛な創作力が帰ってきたかに見えた。だが97年、2作目のオペラ マヌエル・ヴェガス を作曲中、彼の精神は破綻する。きっかけのひとつに、親友マーラーに 代官様 のウィーン国立歌劇場での上演を断られたショックがあるらしい。彼はマーラーが自分のオペラを上演してくれると周囲の人々に言いふらし、果てはマーラーを追い落としとして自分がウィーン国立歌劇場の監督になるとか、オペラを携えて世界旅行をするといったあらぬ妄想に陥り、狂気にむしばまれ死んでいった(このあたりのくだりは、ケン・ラッセルの映画『マーラー』にもちよっと出てくる)。

ヴォルフの狂気は若い頃の梅毒が遠因とも言われるが、これほど激しい創作の波に揺さぶられた音楽家の軌跡を、単に病気のせいに戻元してしまうことはできないだろう。でなければ、冒頭に掲げた ミケランジェロによる3つの歌曲のような作品が生まれるだろうか。ヴォルフ最後

の完成した歌曲となった3作(1897年作曲)は、無気味なほどの静けさと重さの中で、孤独に歌ひとすじの生を求めつつ毀譽褒貶にさらされる自らの生を、生者必滅の諦念を、その絶望の中ほのかにゆめめく憧憬の光がミケランジェロの詩に託し歌われる。ヴォルフ自身の人生を凝縮したような3曲を遺し、燃えつきて彼は闇の世界へ分け入って行ったのだ。

ヴォルフの音楽は、理性と狂気とを分かち境界線の間を行きつ戻りつする、表現者の業を感じさせる。どうやら僕は、彼の音楽に導かれ、こうした表現者たちの世界を垣間見たくってしまったようだ。次回、こうした「踏み越えてしまった」作曲家たちの世界を皆さんと共に訪れたいと思う。ネットタマ史上もっとも危険な旅になるかもしれないけれど...



フィッシャー=ディースカウ、シュヴァルツコップらが歌った記念碑的なヴォルフ歌曲集のCD(現在は入手困難)



プチ情報  
速達

ニュー・イヤー・コンサート2004 ウィーン、夢の輪舞のプログラムをご紹介します。ピーパー:2声のファンファーレ(tp:杉木峯夫、デイヴィッド・ヘルツォーク)/ヨハン・シュトラウス2世(ヴェーベルン編曲):恋人ワルツ(宝のワルツ) 作品418(vn1:田中直子、加藤知子、小林美恵、久保田 巧 vn2:久保陽子、沼田園子、安田明子、堀 伝 va:店村真積、中村静香、吉田有紀子 vc:松波恵子、堀 了介 cb:永島義男、黒木岩寿 p:野平一郎 org:高橋博子)/モーツァルト:ホルン五重奏曲 変ホ長調 K.407(386c)から 第1楽章 アレグロ(hm:水野信行 vn:沼田園子 va:店村真積、中村静香 vc:堀 了介)/ベートーヴェン:エリーゼのために WoO.59(p:野平一郎)/モーツァルト:歌劇 フィガロの結婚 K.492から アリア“あなた方はご存知でしょう”(恋ってどんなものかしら) レチタティーヴォとアリア“やっとその時がやって来たわ~どうか、遅れないで来てちょうだい”(s:高橋薫子 p:野平一郎)/ブラームス:ヴァイオリンとピアノのためのソナタ 第2番 変ホ長調 作品120の2から 第2楽章 アレグロ・アパッシオナート(va:店村真積 p:野平一郎)/クライスラーの饗宴[レチタティーヴォとスケルツォ・カプリス](vn:小林美恵【愛の喜び】vn:中村静香 p:野平一郎)[ウィーン奇想曲](vn:久保田 巧 p:野平一郎)

休憩 ピーパー:2声のファンファーレ(tp:杉木峯夫、デイヴィッド・ヘルツォーク)/ヨハン・シュトラウス2世&ゼフ・シュトラウス:ピッツィカート・ポルカ(vc:松波恵子、堀 了介 cb:永島義男、黒木岩寿)/ニューイヤー大吉利クエスト・あなたの好きなヴァイオリン曲[ベートーヴェン:ヴァイオリンとピアノのためのソナタ 第5番 へ長調 春 から 第1楽章 アレグロ](vn:加藤知子 p:野平一郎)[サラサーテ:ツィゴイネルワイゼン](vn:久保陽子 p:野平一郎)/ヨハン・シュトラウス2世:喜歌劇 こうもりから アンサンブルとクブレ“侯爵さま、あなたのような方は”、ヨハン・シュトラウス2世:春の声 作品410(s:高橋薫子 p:野平一郎)/ヨハン・シュトラウス2世(シェーンベルク編曲):皇帝円舞曲 作品437(指揮:堀 伝 vn1:田中直子、久保陽子、加藤知子、沼田園子 vn2:久保田 巧、小林美恵、安田明子 va:店村真積、中村静香、吉田有紀子 vc:堀 了介、松波恵子 cb:永島義男、黒木岩寿 p:野平一郎 fl:佐佐和弘 cl:鈴木高通)司会:膳場貴子 \*なお前日夜には出演者と水戸芸術館友の会との交流会があり、オルガンの高橋博子とトランペットの杉木峯夫、デイヴィッド・ヘルツォークによる演奏(曲目はデュリュフレ編曲によるパッサ:カンタータ第29番のシンフォニアなど)が行われました。

## information

チケットに関するお問い合わせ

...水戸芸術館チケット予約センター / 029-231-8000  
営業時間 / 9:30 ~ 18:00(月曜休館)

公演内容や企画に関するお問い合わせ

...水戸芸術館音楽部門 / 029-227-8118

【ATM便り】毎月1回茨城新聞に不定期登場。

NHK-FM水戸【FM水戸アップデート】火曜日18:15頃~15分ほど(不定期登場) 水戸周辺83.2MHz、日立周辺84.2MHz。

### 「茨城の名手・名歌手たち 第15回」出演者オーディション

茨城県に関わりのある演奏家の皆さんを広く紹介する演奏会「茨城の名手・名歌手たち」。第15回を迎える今年10月23日[土]の演奏会に向けて、出演者オーディションを行います。今回の対象は、鍵盤楽器・弦楽器・邦楽器・邦楽アンサンブル各部門となります(管楽器・打楽器・声楽・器楽アンサンブル各部門は、次回の対象となります)。

開催日:2004年5月29日[土]

応募受付期間:2004年4月10日[土]~4月30日[金]

募集部門:鍵盤楽器・弦楽器・邦楽器・邦楽アンサンブル(2~5人まで)  
資料請求方法:住所・氏名を明記し、80円切手を貼付した返信用封筒と、受験する楽器(編成)を書いたメモを同封の上、下記までお送りください。直接ご来館の場合は、エントランスホール・チケットカウンター(9:30-18:00月曜休館)までお申し出ください。

〒310-0063 茨城県水戸市五軒町1-6-8 水戸芸術館 音楽部門「茨城の名手・名歌手たち」係(担当:関根・馬場)

### チケット・インフォメーション 3月6日(土)発売分

音楽物語 ぞうのババール

5/5(水・祝)14:00開演

料金(全席自由):大人¥1,500 小人(3歳以上12歳以下)¥1,000

ペリオの肖像

6/5(土)18:30開演 料金(全席指定):¥3,500

北村さゆり ピアノ・リサイタル

9/18(土)15:00開演 料金(全席自由):¥2,500

### これからの演奏会・残席情報

○...残席あり(20席以上) ...残席わずか(20席未満) x...残席なし 中央...中央ブロック 左右...左右ブロックおよびステージ裏 補助...補助席

合唱セミナー 2004

3/14(日) ...自由席

クリスティーネ・シェーファー ソプラノ・リサイタル

3/21(日) ...中央、左右・裏

東京オペラグループ公演 喜歌劇 奥様女中

3/27(土) ...中央、左右

ファジル・サイ ピアノ・リサイタル

4/18(日) ...中央、左右・裏

近藤 良と仲間たち

4/25(日) ...自由席

ナタリー・シュトゥツマン コントラルト・リサイタル

5/22(土) ...中央、左右・裏

2/15(日)現在の状況です。

公演当日に残券がある場合、開演1時間前より水戸芸術館チケットカウンターでお得な学生券を発売いたします。ご購入の際には学生証(記名章)をお持ちください。公開セミナーなど、学生券のない公演もございますので、予めお問い合わせ下さい。

固定席が売り切れ次第、補助席を販売いたします。

## 水戸芸術館の主な3月のスケジュール

### コンサートホールATM

大手橋プラムコンサート

3/6(土)13:00開演 入場無料

水戸市立酒門小学校金管バンド部演奏会  
(東関東吹奏楽コンクール銀賞受賞記念)

3/7(日)14:00開演 入場無料

合唱セミナー2004

3/14(日)10:00開始 参加費(全席自由):一般¥1,000 高校生¥500  
中学生以下¥300

水戸市立笠原小学校金管バンド部演奏会  
(東日本学校吹奏楽大会金賞受賞記念)

3/20(土)14:00開演 入場無料

クリスティーネ・シェーファー ソプラノ・リサイタル

3/21(日)14:00開演 料金(全席指定):A席¥5,000 B席¥4,000

東京オペラグループ公演 喜歌劇 奥様女中

3/27(土)17:00開演 料金(全席指定):A席¥5,000 B席¥4,000

### エントランスホール

パイプオルガン プロムナード・コンサート

3/20(土)12:00 / 13:00 3/28(日)12:00

入場無料 演奏は各回20分程度です。

### ACM劇場

水戸市民演劇学校卒業公演『終わらない歌 - スウィート・ソウル・ミュージック』

3/13(土)19:00開演、3/14(日)14:00開演 料金(全席自由):¥1,500

水戸子供演劇アカデミー卒業公演『ソラノシルシ』

3/27(土)19:00開演、3/28(日)14:00開演 料金(全席自由):¥1,000

### 現代美術センター

「Living Together is Easy」展

1/24(土)~3/28(日)9:30~18:00(入場は17:30まで)

休館日:月曜日

入場料:一般¥800 前売・団体(20名以上)¥600

中学生以下、65歳以上、各種障害者手帳をお持ちの方は無料

## 茨城の主な3月の演奏会

佐川文庫 TEL / 029(309)5020

佐川文庫サロンコンサート~若手ピアニストシリーズ~ ありす=紗良・オット  
3/6(土)18:00開演

常陽藝文センター TEL / 029(231)6611

小曾根 真 ピアノ・リサイタル 3/13(土)18:00開演  
(問)EVANS TEL / 029(251)6665(13:00~)

茨城県民文化センター TEL / 029(241)1166

小松亮太&オルケスタティピカ 3/4(木)18:30開演

水戸市民会館 TEL / 029(224)7521

ポスニアヘルツェゴビナ民族音楽舞踊団 3/17(水)14:00開演

ひたちなか市文化会館 TEL / 029(275)1122

佐藤しのぶ ソプラノ・リサイタル 3/6(土)15:00開演  
池辺晋一郎 ピアノ公開講座~お話ころんだを中心として~  
3/11(木)10:30開演

日立シビックセンター TEL / 0294(24)7711

天球コンサート「色彩の戯れ 4つのフルートの物語」  
3/26(金)18:30開演

ギター文化館 TEL / 0299(46)2457

高岡 誠・恵子コンサート 3/14(日)15:00開演

つくばカピオホール TEL / 029(851)2886

増田みのり ピアノ・リサイタル 3/12(金)19:00開演  
(問)増田みのり リサイタル事務局 TEL / 0297(48)4691

玉里村総合文化センター TEL / 0299(26)9111

音楽のおくりもの2004  
~アンサンブル・ディヴェルターズ&笛の音楽隊コンサート~  
3/14(日)14:00開演

水戸芸術館音楽紙【ヴィーヴォ】 2004年3月発行 第97号

編集・発行/水戸芸術館音楽部門 〒310-0063 茨城県水戸市五軒町1-6-8

TEL:029-227-8118 FAX:029-227-8130

e-mail [ankmr@arttowermito.or.jp] URL [http://www.arttowermito.or.jp/]

編集/水戸芸術館音楽部門(五十音順):関根哲也 中崎美智代 中村 晃 馬場千恵

矢澤孝樹(編集長)

DTP / office west

印刷所 / 株式会社あけぼの印刷社

次号は...春の嵐か? 春雷か? 驚天動地の 春の祭典 襲来!